

温故知新セミナー

たむけいし

士塾 講演録

〈歴史をつくった人たち〉

第3回 小池和春



公益財団法人
富士社会教育センター

プロローグ

「本日の〓〓研修会〓〓」木遣りで新潟産まれの江戸っ子、第四回小池塾が始まりました。小池和春氏は石川島播磨重工労働組合出身で、柳澤錬造参議院議員の事務局や造船重機労働の役員時代は基幹労連結成に力をつくされた方です。労働組合活動に教育活動の重要性を強く訴え推進した方であります。そのこともあり幣財団、とりわけ御殿場本校とは強く繋がりがあり、本日開催となりました。

労働組合教育に従事したこともあり、当日も随所にこころの持ち方、姿勢に対する言葉が綴られました。それは令和の今の時代でも十分通じる言葉でありました。

当時800人いた組合員の顔と名前が一致していたという小池氏、今、造船不況で世間の波は労働組合への批判も集中するなかで、組合員の信頼を得た小池氏のお話は

真に、職場が原点、組合員の一人ひとりの集まりが労働組合であることを改めて感じさせていただきました。

令和の時代 連合結成30年となり、一同団結する方向のなか、組合活動として忘れてはい

けないものを継承いただいた「温故知新セミナー」となりました。

本誌のなかでいくつかの小池語録（小池言葉）が出てきます。楽しみながらご一読ください。

（公財）富士社会教育センター 常務理事 武田 仁

もくじ

イントロダクション 4

第一部

石川島工業高校から入社へ～労働運動との出会い～ 6

(質疑応答) 16

第二部

支部委員として職場活動に～職場が原点の実践～ 19

柳沢錬造選挙の専従に～流した汗の量が結果に表れる～ 26

(質疑応答) 37

第三部

支部書記長、そして本部役員へ～組織を背負う責任とは～ 39

造船重機労連から基幹労連へ～組織を統合するときの大切さ～

(質疑応答) 51

43

イントロダクション

実はこの話を受けてから、我が家は台風15号の被害を受けまして、その対応で大変でした。台風15号、19号で被害を受けた方にはお見舞いを申し上げたいと思います。IH1の中にも被害を受けた方が沢山いらっしゃると思うんですが、我が家はようやくよく工事も終わりました。あの足場の暗さはほんと嫌だね。それを約1カ月我慢しました。補償の問題で、大変な思いをしているところです。

そんなこんなで私も今、地域活動、町内会のことをやっております。話の前に「木遣り歌」の一節でも一回やってから、自分に気合を入れてから話そうかなと思っています。木遣りってというのは、実は作業歌なんですよね。だからある意味では、労働歌だと私は思っています。複数人で1つの作業を行うときに力を1つにまとめてやろうということなんです。今では作業は機械化されて、人力でやることは少なくなっています。ですから木遣りも今では作業歌というよりも、どちらかというところ、祭礼とか、祭の練り歌になっています。今度2月3日節分の日に町内を練り歩くんです。今日も木遣りのハッピを持ってくれば良かったなと思っています。はじまりは所説あるようです。京都の建仁寺を建立したのが栄西ですよ。その栄

西が自分の名前を掛け声にして「エイサイ、ホイサイ」って言うてね。それが掛け声の始まりだということらしいんですが、所説ありますからね。これが本当かどうかは知りません。そういうことで、一声あげさせていただいてから、話に入っていくのかなと思います。

（木遣り）

今日のこの日を寿ぎて、めでたく歌う木遣りの一節。イヨオ〜オ〜イヤリヨ〜

これは真鶴っていう歌で、実はこの後に手古が入るんですけれどね。わが町会では行事のはじまりのときとか、締めるときなんかには、これをやります。そんなことで一節あげさせていただきました。本当は、やるときにはちよつとアルコールを入れるんですよ。そうすると喉の開きが違うんですよ。本当ですよ。だから月1回第3木曜日に練習するんですけど、やる前にはやっぱりちよつと潤すんですが、今日は水で潤します（笑）。

第一部

石川島工業高校から入社へ　　労働運動との出会い

私は過去を振り返るのが嫌なんですよ。なぜかというとはつきり言いますと、私がやってきた悪事がみんなバレるわけよ(笑)。でも、それを言っていかないといかんかなということ、今回お話を受けたわけです。逆に私の回顧録といえますか、生まれたときからずっとどうだったのかなあと振り返ると、組合の仕事をずっとやらせていただいたのも皆さんのおかげだなど思っていますし、富士社会教育センターの皆さんのおかげかなと思っています。

富士社会教育センターは、昔は研修が1泊3日だったんですよ。寝れない、寝かせてくれない。それだけ課題をどんどんどんどん与えられて、何でもっと丁寧に教えないのかと思つたものです。私が支部委員になる前、青年協議会っていうのがあったんですけど、その人たちが研修に行つて帰つてくると、目の色が違うのです。コロッと変わっちゃう。話の内容もびつくりするような感じなんですよ。視野がものすごく広がって帰ってきたんでしょね。そんなことで、嫌だったんだけど、柳沢錬造の選挙をやらなきゃいけないということもあつ

て、臨時専従で組合に上がることになって、行ったのが初めてです。それは私が「行かせてください」って言って行きました。「行きなよ」って言われて行くのが私は嫌で、自ら行かないといかんなと思ったわけです。

行ったら、本当は変わっていないんでしようけれど、考え方が変わった。それから視野が広くなった。これは後で話しますが、昭和46年だったかな、全造船を脱退してから、その当時は東京支部だったんですが、東京支部の予算というのは、4分の1ぐらいを教育にお金をかけていました。というのは、脱退してから5年間で大事だということで、ものすごく研修に組合員を送り込んでいました。今もIHI労組は年2回ぐらい御殿場で研修をやっていますけれど、事務局で参加したりしました。その事務局がおもしろかった。そういうことで、富士政を私は好きになりましたね、「行かせてください、行かせてください」なんて言いながら、やっていたところであります。今思えば、行って良かったなと思いますし、教育の大切さを教わったのは、やっぱり御殿場だったなあと考えております。

それで、これから私の経歴です。波瀾万丈かどうかは分かりませんが、経歴も含め、思い出に残る運動について、いくつかに分けて話をしようかと思っています。

まず、後で話しますけれど、私はちょっと変わったところの出です。それから石川島工業高校、これも結構いろいろありました。労働運動に目覚めたんじゃないやなくて、共産党に対する考え方を持ったというのが、この石高のときでした。それから私は石高の生徒従業員だったんですが、卒業と同時に会社と雇用契約をもう一回結び直して、それで正社員になりました。それから執行委員になるまで、支部の執行委員時代から、佃に組合本部がありましたけれど、その間の話。あとは造船重機労連から、基幹労連結成までのところですね。それから支部に戻って委員長という感じで、その時々にかういうことがあって、私はかういう判断をしてきたということを、回顧録的に話をしていきたいと思えます。

「額に汗して働くものが、馬鹿を見ない社会を作ろう」というのは、柳沢錬造さんが参議院に出るときの、キャッチフレーズでした。この言葉を契機に私は組合の専従になったんですが、私は石高時代から数えますとIHIに45年勤務です。だいたい6年周期で変わっています。生徒従業員で4年でしょ、工場で仕事をしていたのが6年、それから柳沢錬造の臨時専従が2年、支部の書記局と書記次長で8年、支部執行委員6年、支部の書記長4年、委員長が6年、本部専門部長が4年、産別に行つて造船重機労連と基幹労連発足が6年というような

感じます。そんな感じでやってきたということです。どちらかというと選挙運動との関わりで、私自身は成長してきたかなあと思います。市議会議員選挙、あるいは国会議員選挙、都議会議員選挙とか、いろいろ関わってきました。

私はリタイヤしてから10年経ちます。今69歳です。みんな「若い」って言わないけど、他のみんなは私のことを「若い」って言うんですよ。実は私はお寺の四男坊なんです。新潟県村上市の猿沢というところの出身です。そこで四男坊として生まれました。でも、私は坊主になるのが嫌だったんだ。なぜかっていうと、亡くなった仏様を見なきゃいけない。あれを見るのが嫌でね。というのは、親父も私が小学校5年のときに亡くなっているし、おばあちゃんもその1年前に亡くなっているのを見ているものですから。私は、坊主は嫌だったので、何か他にないかということ、石高に入ったわけです。

実家のエリアの小学校は、小学校ができる前は寺子屋でした。そこはうちのお寺が発祥だったようなんです。そんなこともあって、学校の先生の赴任・退任のとき、親父が生きているときは、毎年挨拶に来ただけで、親父が亡くなってから、パタッと来なくなりました。これも不思議なもんだな、人っていうのは何を考えているのかって思ったものです。

話を戻しますが、私は昭和41年に石川島工業高校に入ったんですけど、何だか知らないんですが、昼ぐらいに学校から工場の方を見ると、デモをしているんですよ。今はデモと分かりますが、その当時は工場でワッショイワッショイやっているのを、何なんだろうって見ていました。

高校時代は学生寮に入っていました。まあ学校は卒業すればいいなという感じだったから、バイトに明け暮れていましたよ。2年生の後半ぐらいから3年生の初めぐらいに、「ねこひき」っていうのがあるんですよ。「ねこひき」っていうのは、築地の冷凍船から冷凍庫に荷物を引っ張る仕事なだけけれど、これが良い金になるんですよ。私はそのアルバイトは冬しかやらなかった。夏にやったら臭うから、身体に魚の臭いが移っちゃうから、冬にやっていました。初めての体験で、鼻毛が凍るんですよ。それで学校を休んで、学校の傍の若潮寮っていう寮で寝ていた。昼に仲間が私の部屋に来てタバコを吸いやがんです。そのとき実は私も吸っていました。それで寝ていて、片付けて行けばいいのに、置きっぱなしで出て行って、部屋に寮長が来たんですよ。「小池くん」「はい」「今日は休みかね」「はい、調子が悪いです」「ところで小池くん、タバコ吸うの？」って言うから、おかしいこと言うなって思っ

パツて見たら灰皿が置いてあったので、「吸います」と言わざるを得なかった。ところが私1人がそんないっぱい吸わないからね。「火事が起きないようにしなきゃいけないよ。これは捨てるから」って言われたんだけど、これが寮長との駆け引きだったんだ。吸った奴をバラせば、退寮しなくていいという。私は新潟だから、退寮しなくていい。でも言えないよ、そんなことは言えないよ、仲間を売るようなことはね。最近売っているけれどもね(笑)。それで「それだったら寮を出ます」と言つて、たまたま姉が所沢にいたから、姉のところにきました。その前に1カ月間姉にも言えなくて、六本木のある飲み屋さんのところで1カ月過ぎました。

そういうこともあったんですが、その前にもう一つあったのが、退寮するときには指紋をとったやつは返すということになっていました。確か私が2年生のときに寮で盗難がすぐあったんですよ。そのときにみんな指紋をとられたんですが、それを返してくれるっていう話だったのに、返してくれなかつたんですよ。それから、何か変なことをしたら捕まると思います、私は悪いこと、何が基準で悪いことかは分からないけれど、犯人になるようなことはしていません。捕まるようなことは一切してないからね。学校時代も、自慢じゃないけれど

始末書を一枚も書かなかつたからね。

修学旅行のときに、これがまた先生に見つかっちゃったんだよね。タバコを吸っている、酒を飲んでるっていうやつが。修学旅行は九州だったんですが、石高は4年制だから、4年生の19歳で行くんですよ。他のところは17、18歳でしょ。そうするとケンカを売ってくるんですよ。やっぱり悪い奴はみんなどういいうわけかバスは後ろに座るんですよ。それでコカ・コーラに焼酎を入れて、後ろで飲んでる。側から見たら、コカ・コーラを飲んでるように見える。それでタバコは窓を開けてはふーっとやっていました。先の地震で壊れた熊本城で捕まりまして（笑）。「だったら学校辞めるわ」なんて言っただけ、それもまた始末書も書かずに済みました。それはなぜかというのが分かったんですが、3年生のときに、1つ上に共産党の民青がいて、これが学校で政治ビラみたいなのを撒いた。そいつがしょっちゅう撒いていて、私とある人としてしょっちゅう蹴飛ばしたりしていたのです。「何しに来た」って言っただけ。そういうふうに排除していた。それを先生は見ていたんじゃないかな。「まあいいよ」なんて言っただけ、始末書は書かなくて済んだというのが石高の時代でした。

石高のときは他にもいろんなことがありました。私はその後、みんなの前で「絶対に私は

卒業するまで先生の前で一切タバコを吸いません」って言って、それで卒業式の後、謝恩会が終わって外に出てから、「先生、飲みに行きましょう」って言って、そのときに初めて吸った。修学旅行でバカな奴が写真撮って、それであのとき分かっちゃったんだ。本当にろくな奴がない。皆さん、友達はいい奴を持ちましょうね。

私は技能オリンピック東京都予選に出たことがあるんですよ。工場板金2級を持っているんです。それで技能オリンピック東京都予選が千葉の稲毛でありましてね。いやあ、日産プリンスには勝てない。ただ1枚の板を展開するんですよ。私は練習のときには1・2ミリのSSを使っていたから、時間内に作れない。本番は1ミリ、だから早いよね。でも、いつもできている奴ができないんですよ、急いでやったんだけど。後は住重田無、日特金が来ていた。やっぱり日産プリンスですかね。これがプレスでピシャッと作ったみたいで、これは勝てないと思った。私なんかやったらボコボコだもん。要は叩き出してバケツを作るんですけど、バケツに水を入れて1分か2分くらい待って、水が漏れてきたらダメなのです。私のは出なかった。うちのIHIの石高も4人受けて、一番うまい奴が実は漏れちゃったのです。それで私は4位だったのです。だから、やるときはやらなきゃいかんと思いました。

昭和45年3月15日に石川島工業高校を卒業して、IHIの瑞穂工場に配属されました。私ともう1人の辞めてしまった人間の2人が、石高を卒業して1期目なんですよ。先輩は何人かいましたが、卒業即入社したのは、瑞穂工場は2人だけだったんです。ところが石高卒というところ、共産党のはぐくみ会、通称「マルハ」と間違えられるんですよ。これが私が瑞穂工場に配属されたときの思いだった。「マルハ」って、「そういう目で見ると構わんよ」という感じだったんですが、石高には素晴らしい先輩がいたのです。柳沢錬造、金杉秀信、荒川和夫っていう大先輩がいた。それから市川健蔵さん、こういう4人の大先輩にいろいろと私も助けられました。私のことを「絶対に敵に回すな」ということをあちこちで言うていましたよ。

しかし瑞穂工場って、横田基地の側で、昔はほとんど田舎ですよ。周りは茶畑だけだったんです。それで昼は、都有地があつて、そこはススキがいっぱいあつて、そこをほじくると蛇がいっぱいいました。それからイタチなんかもいた。工場の中に入ってくるんですよ。そんな田舎でした。いや、私は嫌だったね。

当時は8時から4時まで仕事で、その次が4時半になって、5時になった。それが隔週の

小池和春 プロフィール

- 1951（昭和 26）年 新潟県生まれ
- 1966（昭和 41）年 石川島工業高校入学（生徒従業員）
- 1970（昭和 45）年 石川島播磨重工株式会社入社
- 1972（昭和 47）年 瑞穂工場修理工作課の支部委員に当選
- 1976（昭和 51）年 柳澤れんぞう瑞穂工場後援会の事務局専従
- 1977（昭和 52）年 石播労組東京支部瑞穂地区のオルグ書記
- 1982（昭和 57）年 武蔵支部執行委員
- 1990（平成 2）年 武蔵支部書記長
- 1992（平成 4）年 石播労組本部専門部長
- 1996（平成 8）年 武蔵支部書記長再就任
- 1998（平成 10）年 造船重機労連総務部門局長
- 2003（平成 15）年 基幹労連結成時に事務局次長
- 2004（平成 16）年 武蔵支部委員長（～ 2010 年）

温故知新セミナー “土塾” 講演録

〈歴史をつくった人たち〉

第3回 小池和春

令和2年3月31日発行

発行所 公益財団法人富士社会教育センター

〒101-0024

東京都千代田区神田和泉町1-12-15 O S ビル3階

電話03(5835)3335

